

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400024
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ三瓶
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立 7 番耕地 8 4 番地1
自己評価作成日	平成23年7月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームで生活していても地域との交流・つながりを大切にし、ボランティアの受け入れや地域の行事に積極的に参加をしています。年々、つながりも増え交流する機会も増えてきております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●職員や利用者は地元の方が多く、地域行事や買い物に出かけると知り合いに会うことも多い。地区の夕涼み会に出かけて輪投げをされたり、運動会で競技に参加する等、利用者もみなと一緒に楽しめるよう支援されている。利用者の身体機能の低下に伴い、管理者はスーパーに食材を配達してもらえようお願いに行かれたが、スーパーの店長からは「ホームは買い物に来てくれるのではなかったの？」と問われ、管理者は、グループホームの支援の原点に立ち戻り、気付かされたこともあったようだ。

●職員は「自分だったら・家族だったら」という気持ちで利用者に接しておられる。職員が作業をしていると利用者が「手伝ってあげようか」と声をかけてくださり、一緒に作業をすることもある。又、床をぞうきんがけしてくださる利用者に、職員は「助かります」と感謝の言葉を伝えておられる。調査訪問時、職員みな、利用者が手縫いしてくださったおそろいのエプロンを着けておられた。利用者は、ご自分が作ったエプロンやふきんを使ってもらえることを、とても喜ばれるようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

アクティブライフ三瓶

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏名

藤田 智子

評価完了日

23 年 7 月 15日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			開設時に職員同士で考えた理念を掲げ、日々の業務でもその理念に沿った介護を目指し取り組んでいます。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(外部評価)	
			開設時に職員で作成した理念を玄関に掲示されている。今後さらに、職員間、ご家族や地域の方とも理念を共有しながら取り組みをすすめていけるように、理念の共有について工夫をされてみてはどうだろうか。	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			いつでも見学ができるように対応していますし、ボランティアなどでこられた方々にも認知症の方々に対しての理解などをしていただけるように説明を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営状況やホームの現状を出席していただいた方々に説明をし、質問や意見などを頂き参考とさせていただいております。	
			(外部評価) 会議には各ユニットご家族が1名づつ、1年に渡って参加してくださっており、民生委員の方や時には利用者も参加されている。参加しやすい会議となるよう、家族会と合わせて行うこともある。会議では事業所の活動報告やヒヤリハット・事故報告等をして、参加者と意見交換をされている。参加者から「下肢筋力の向上のための取り組みはどうしているのか？」との質問があり、事業所で取り組んでいる体操や運動について説明をされた。又、6月には脱水症について参加者と勉強をされた。	さらに、事業所では「地域との関係が深められるような会議をすすめ、地域との協力体制を作っていきたい」と考えておられる。又、参加しやすいよう会議をすすめ「参加者を増やしていきたい」と話しておられた。事業所のケアについても、より具体的な報告から、より具体的な気付きや意見が引き出せるよう、会議の内容やすすめ方についての工夫が期待される。又、事業所のネットワークを拡げていけるよう、会議を活用して取り組みをすすめていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事故報告や感染症など、発生時には速やかに報告を行い今後の取り組み等を説明しております。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方が出席してくださったり、介護相談員も受け入れておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の夜間以外はしないようにしていますし、外出時にはチャイムが鳴るようにしています。また、拘束はしないことを徹底すると共に安全面についても対策を行っております。	
			(外部評価) 利用者の「歩きたい」「自分のことは自分でしたい」という気持ちを大切にした支援に努力されており、転倒等の心配がある場合は、職員で話し合い、拘束をしなくてもすむような方法を検討されている。たとえば、足元が不安定な利用者をご自分でベッドから起き上がろうとされる場合、ご本人の行動パターンを把握して、ベッドの柵を持ったら鈴が鳴るようにされていたり、くつの中に鈴を入れておき、いち早く職員が音に気付くようにされていた。センサーマット等も使用されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞等での事例報告や職員間でお互いに注意しあい、注意し取り組んでいます。	
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在ホームで利用されている方がおられず制度について徹底できていません。	
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、時間をかけて説明をし、また、変更時には文書にて説明を行い理解して頂ける様に説明をしています。	
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、その方に関しての状態や活動などを各ご家族に報告をさせていただいております。意見や要望に対してもその都度速やかに対応をするように心がけております。 (外部評価) 毎月、利用者個々の様子は、ご家族個々にお手紙で知らせておられる。又、事業所広報誌「マンボウ」には、行事等の写真を多く載せておられ、ご家族も楽しみにされている。年1回の家族会では、食事したり、ゲームを楽しみながらご家族、利用者、職員で親睦を深めておられる。7月に管理者が交替したことについては、すべてのご家族にお手紙で報告され、又、ご家族の来訪ごとに、あいさつして関係を作っているところである。ご家族からは「任せます」と言われることが多く、管理者は「ご家族が事業所を信頼してくださっている」ことを感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のスタッフ会や各自提案があれば、その都度報告されていますし提案については取り組めるようにし職員の意識向上にも取り組んでいます。	
			(外部評価) 事業所では、小さなことでも職員同士で相談しながら取り組みをすすめておられ、職員が答えることが難しいような利用者からの質問への対応についても、すべての職員が同じ対応ができるよう話し合われている。事業所の行事についても念入りな打ち合わせをされ、利用者が喜ばれるような取り組みができるように努力されている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 登用制度があり、各自が向上心を持ち取り組める環境となっています。	
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内など、その都度報告をし、その研修後にも報告会を行うことで全員のレベルアップにも取り組んでいる	
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は運営会議やGH検討会などで情報を収集したり、職員も参加する研修などでその都度交流を行う機会となっています。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 健康診断時に立ち会ったり、事前に顔合わせをすることにより入居時の不安を解消できるように、今までの生活の様子なども聞き取り入れるようにしています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族に対しては、健康面だけでなくそれ以外にも要望など可能な限り対応している。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その都度要望や困っていることには耳を傾け、よく相談することで必要な支援について検討をしております。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活をするという関係を築き、職員がしすぎてしまわないように共に行ったり、出来ることは一緒に行ったり一方的な関係にならないように取り組んでいます。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあればご家族には状況を説明し協力を依頼できる面にはお願いをし、ご家族だから出来ることがある事を理解して頂き、共に支える関係を大切にしています。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係を今まで通りに継続できるような支援を行っております。出来るだけ地域のお店を利用することで地域との関わりも大切にしています。 (外部評価) 毛染めやカットに出かけたり、お盆にはご自宅の掃除に戻ることを支援された。電話でお話したり年賀状を出すような支援もされている。携帯電話でご家族にメールをしたり、居室にはお孫さんやご家族の写真も飾っておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を大切にし、職員は時には見守りを行い、時には一人一人の間での関わりを持てるような支援を行ったりしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了をしても必要に応じて連絡をしたり相談や支援をしたりしています。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、今までの生活の様子などを御家族にお伺いしてみたり、本人の意思や希望を尊重した取り組みを行っています。 (外部評価) 職員は、利用者の表情等からも個々の気持ちの把握に取り組まれている。現在、事業所では利用者の身体機能の低下や重度化への対応を課題に挙げておられるが、その分利用者一人ひとりに、じっくりかかわることができると考え、個々とコミュニケーションを取りながら、思いや意向の把握に努めておられる。事業所内で運動会を行った際、普段は手足をあまり動かさない利用者が、自主的に動く姿をみて「できることがもっとあるのではないか」と気付かれていた。	利用者が子どもの頃の情報やこれからの暮らし方について希望を探り、利用者個々が最期までその人らしく暮らし続けられるよう、支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 過去のサービス利用については、介護支援専門員より情報の提供を依頼。生活歴については、ご家族やご本人に伺い馴染みの物も持ち込めるような環境を整えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定は毎日実施。日々の状態や様子については主治医にも報告を行い、個人別に介護記録に記入している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、把握に努め、個々の有する力については現在も維持・拡大出来るよう引き続き取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月に一度のスタッフ会の際にカンファレンスを実施。入居者の状態に合わせ、情報を共有し、ケア方法を統一出来るように意見交換している。ご家族には、必要に応じ連絡を取り面会時にも状況をお伝えし相談しながら取り組んでいます。	
			(外部評価)	
			利用者個々に担当の職員が配置されており、担当職員を中心に介護計画を作成されている。3ヵ月で見直し、変化がない場合は継続して支援されている。ご本人のケアへの希望やご家族の要望を書いていただく欄を設けておられる。	事業所では今後さらに、ご本人主体の支援をすすめていくために、利用者とは話し合いながら一緒に介護計画を立てたり、ご家族とも相談しながら計画を作成するような取り組みについても考えておられた。又、アセスメント表や介護計画の書式等についても、見直すことを検討されていた。
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケアプランを介護記録に記載することで日々の取り組みにいかせるように取り組んでいる。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院受診や散髪、買い物や外出等、その時の状況に応じて柔軟に対応している。必要があれば御家族にも出来る範囲で協力をお願いしたり、相談をしながら取り組んでいる。	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアも年々たくさんの方に来ていただけるようになり積極的に受け入れを実施。その交流を継続できるように取り組んでおります。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人や御家族の希望を大切にし、入居前にかかりつけ医については相談している。その時の状態や状況に応じて必要な場合には、希望する病院へ受診出来るよう支援している。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			専門医にはご家族が付き添って受診されたり、ご家族のご都合に応じて職員が同行されている。	
32		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			一週間に一度、医療連携看護師の訪問があり適宜、状態の報告や相談を行っている。毎日バイタル測定を実施し、体調の管理と状態の把握に努め、必要な場合には医療連携看護師に連絡を取り、状態報告している。	
33	12	○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入退院時には情報交換を行っている。入院先の病院には定期的に顔を出し、入居者が少しでも安心出来るよう配慮している。病院関係者とも定期的に連絡を取り合い、早期退院に向けて相談するようにしている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入居者の状態については、御家族や主治医、医療連携看護師に報告・相談を行い、必要な場合には主治医から御家族に説明をして頂いている。方針については共有し、ホームで出来る事を理解して頂けるよう取り組んでいる。	
33	12		(外部評価)	
			事業所では「ご家族の協力等体制が整えば、利用者やご家族の希望に応じて最期まで支援する」ことを、入居契約時に説明されている。ご家族は「まだまだ先のこと」「弱っていくことについての話は辛い」と思っておられる場合も多くあり、最期のことについては、聞き取り難さもあるようだ。	現在、利用者の身体機能の低下や重度化等のこともあり、今後のことについて「ご家族や職員と話し合う必要がある」と感じておられる。家族会や運営推進会議の機会に看取りについて話題にされたり、又、ご家族等の不安や心配ごとについても聞き取り、話し合うきっかけ作りに取り組んでいかれてほしい。事業所では「自分が利用者だったら」という利用者の立場からの視点で、事業所のサービスを考えていきたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の連絡先やマニュアルを作成している。普通救命講習にも参加したり研修などに参加して急変時に対応できるように取り組んでおります。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に一回防火訓練を実施出来るよう計画している。訓練の際には消防署職員に立会って頂き、指導を受けている。マニュアルや消防計画書・地震対策計画書はあるが、職員への周知徹底と、地域との協力体制にまだ課題が残る状況。 (外部評価) 年に2回、火災を想定した避難訓練を行っておられる。家族会時に地元の消防団の方に来ていただき、一緒に食事をされたりお話を聞かせてもらったこともある。職員は地元の方が多く、いざとい時には駆け付けようになっている。	さらに、事業所の立地条件等を踏まえて、いろいろな災害を想定した避難訓練を重ねていかれてほしい。利用者の状況や時間帯等、場面を変えて訓練をされたり、地域と協力し合えるような体制作り等についても、取り組みをすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分達の対応で、入居者を傷つけたり、役割を奪ってしまわないよう、相手との距離間に十分配慮し、気が付いた時には職員間で注意しあうようにしている。また、自室で過ごされる時間も確保するようにしている。 (外部評価) 前回の評価結果を受けて、事業所では職員の利用者に対しての言葉かけや対応について職員同士で点検し合うことに取り組み、管理者は「職員の対応がとてよくなった」と感じておられる。職員は「自分だったら・家族だったら」という気持ちで利用者に接しておられる。職員が作業をしていると利用者が「手伝ってあげようか」と声をかけてくださり、一緒に作業をすることもある。又、床をぞうきんがけしてくださる利用者に、職員は「助かります」と感謝の言葉を伝えておられる。調査訪問時、職員みな、利用者が手縫いしてくださったおそろいのエプロンを着けておられた。利用者は、ご自分が作ったエプロンやふきんを使ってもらえることを、とても喜ばれるようだ。居室のポータブルトイレは、日中使用しない時には布をかけて目に触れないように配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、何かお願いする際には本人の意思を確認し、自己決定していただけるよう支援しているが、つい、こちらからのお願いが多くなる事がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の状況に応じて臨機応変に対応している。何事も無理強いせず、形にとらわれず、入居者の体調や希望に合わせ、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) それぞれ、希望する場所で散髪が出来るよう、御家族にも協力して頂きながら支援している。起床時や外出の際等、身だしなみやおしゃれが出来るよう、好みの服と一緒に選んだり、鏡の前で整容するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の形態は入居者の嚥下状態に合わせた物にしている。とろみをつけたり、ミキサーなどの形態の検討も行っている。食事の準備や片付けに関しては、出来る範囲で助けて頂いている。 (外部評価) 事業所では、食事支援に力を入れて取り組んでおられ、手作りでおいしいものを利用者に食べてもらえるように支援されている。調査訪問時、そうめんのだしに取ったしいたけを甘辛く煮て、具として乗せていたり、ついもの酢物等、地元ならではの食べ方等を大切にされ、祭りの日には郷土料理を作る等、利用者の馴染みの食事をよく作っておられる。又、畑で採れた野菜等も使用されている。利用者の状態に合わせて食材を小さく切ったり、とろみを付け、食べやすくされており、できるだけ口から食べることができるよう、職員は時間をかけて介助をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 三度の食事の際には必ず汁物を付けるようにし、その他には10時・15時・19時と水分補給の時間をとっている。状態に合わせて、チェック表を使用し、一日の摂取量を確保出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 出来るだけ自分で出来るところまでは自身で行ってもらい、出来ていない部分については介助で行い清潔に努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			おむつの使用は必要最小限にし、可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態の観察を行っている。	
			(外部評価)	
			職員は、利用者の排泄状況を記録して、パターンを把握して声をかけたり誘導して、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			薬に頼らなくても自然な排便が出来るよう、日頃より水分補給に注意しない方はチェック表を利用し、適度な運動を心がけている。	
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴が好きな方、拒否がある方とさまざまですが、最低でも週に2回～3回は入浴が出来るように支援している。また、皮膚の状態や体調に合わせ、毎日入られる方、1日置きに入浴され方など、個々に応じて対応している。	
			(外部評価)	
			毎日2～3名づつ入浴をすすめ、一人ひとりがゆっくりお風呂に入ることが出来るように支援されている。現在は、入浴を強く嫌がる利用者はおらず、みな、おおよそ週に2～3回入浴されている。毎日入りたいと希望する利用者もあるようだ。	さらに、この評価の機会を活かして、事業所が提供するケアサービスについて、利用者の立場に立って考えてみる機会にされてみてはどうだろうか。たとえば、利用者の入浴の習慣を探り支援に採り入れられたり、ご家族等にも事業所の入浴支援について具体的にお伝えして、支援に対しての希望をお聞きしてみてもどうだろうか。
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			体調や状況に合わせて適宜休息をとっている。入眠時間は個々に合わせ、室温にも配慮し、快適に過ごせるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関する情報はお薬情報で確認をしている。薬の変更があった場合には、日誌等で申し送り、その後の状態について観察するようにしている。誤薬防止の為、内服の前には名前と日付の確認を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で、情報を集め、出来る事を見つけ、それを維持・拡大出来るよう支援している。一緒に畑をしたり、季節の物を食卓に取り入れるように取り組んでいます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度は外出レクとして遠出出来るよう計画を立てている。その他にも個別に行きたい場所へ外出出来るよう支援している。本人の希望で自宅にいきいたいという方などの対応もしております。 (外部評価) 居室から野菜畑が眺められ、食事前に職員と一緒にトマトを採りに出られたりされている。夏は夕方に外に出て、シャボン玉遊びをすることもある。又、近くのコンビニに買い物に行かれることもある。月に1回は行事として外出するように決めておられ、お花を見に行かれたり、道の駅等にも出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金についてはご本人や御家族の希望にそって対応している。ご自分で管理されている方、ホームでお預かりしている方とさまざまですが、いつでも使用出来るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合には、御家族や友人へ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。年賀状を出される方もおられ、これまでされてきた事が継続出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、出来るだけ飾りや花を飾ることで居心地よく過ごせるよう配慮している。会話のきっかけになればと考え写真も多く掲示するようにしている。	
			(外部評価) ひまわりの花を花瓶に生けておられたり、小花をテーブル等に飾っておられた。居間の一角にも流し台を設置して、利用者が家事に参加できるような環境が整っている。冷房は、28度に設定しておられ「暑い・寒い」等、利用者にお聞きしながら調節をされている。調査訪問時は、祭りや運動会等の行事等を撮ったビデオを流しておられた。雑誌や新聞を置いておられ、お好きな時に見ることができるようにされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者同士で思い思いに過ごせるように工夫している。屋外にもイスやベンチを設置して、散歩した際には休憩場所として過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はご本人が過ごしやすいよう、使い慣れた物、好みの物を自由に持ち込めるようになっている。食器や机等、その時の状況に応じて対応している。	
			(外部評価) 洋服をハンガーにかけている利用者やご家族の写真等を大切に飾っておられる利用者もいる。利用者の状態に応じて抱きまくらやクッションを置いて使っている方もみられた。1階は居室の掃き出し窓から外に出ることができ、畑に出る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 状態に合わせ、対応している。説明をする場合には分かりやすい言葉(方言)を使用し、一緒に行ったり見守りをしながら混乱や失敗を防ぎ出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。また、風鈴や鈴を利用し転倒防止に努めている。	